

平成 31 年度事業計画

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 平成 32 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

はじめに

I 囲碁普及事業（公益目的事業）

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 囲碁対局環境の提供
- 4 囲碁普及と囲碁指導
 - 4-1 青少年等への囲碁普及
 - 4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 4-3 海外への囲碁普及
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 アマチュア国際大会開催
 - 6-4 アマチュア国際大会への参加等
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

III 管理部門

- 1 「女流特別採用推薦棋士」「英才特別採用推薦棋士」の新設と拡充
- 2 コンプライアンス
- 3 受取寄付金の維持拡大と有効活用
- 4 「100周年ビジョン」に向けて

はじめに

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供などの事業を国内外で実施する。

平成 31 年度における事業計画及び予算は次の通りとする。

I 囲碁普及事業（公益目的事業）

1 棋戦事業

棋戦は、囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。棋戦の様子は、新聞での速報や囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化の振興に寄与している。

また、地方で開催される挑戦手合や棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好者や子どもたちの交流の場として、対局を直に見る機会を設けるほか、解説会や指導碁など、ファンイベントを同時に開催する。海外棋戦やインターネット棋戦などを含めた平成 31 年度予定の棋戦の概要は以下の通りである。

(1) 棋聖戦（第 44 期 読売新聞社）

予 選：アマチュア 4 名を含む全棋士が参加する、ファーストトーナメント予選を実施し、勝ち上がり 16 名が C リーグに出場する。

リーグ戦：上位から順に S リーグ（6 名）、A リーグ（8 名）、B リーグ（8 名×2 組）、C リーグ（32 名の変則リーグ）を行い、各リーグの優勝者がパラマス方式による挑戦者決定トーナメントを行う。各リーグの上位 2 から 6 名は上位リーグに昇格し、逆に各リーグの下位 2 から 6 名は下位リーグに降格する。

挑戦手合：七番勝負（4 勝先取）を実施し棋聖位を決定。敗者は次期 S リーグ戦から出場。

(2) 名人戦（第 44 期 朝日新聞社）

予 選：全棋士が参加し、4 段階の予選を行い、リーグ入り（3 枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：9 人による総当たり戦を実施し第 1 位者が挑戦者になる。上位 6 名が残留、3 名が陥落（次期最終予選からの出場）。

挑戦手合：七番勝負（4 勝先取）を実施し名人位を決定。敗者は次期リーグ戦から出場

(3) 本因坊戦（第 75 期 毎日新聞社）

予 選：全棋士が参加し、4 段階の予選を行い、リーグ入り（4 枠）をかけた

たトーナメント戦を実施。

リーグ戦：8人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。上位4名はリーグ残留、リーグ陥落者4名は次期最終予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し本因坊を決定。敗者は次期リーグ戦から出場

(4) 王座戦（第67期 日本経済新聞社）

予選：全棋士が参加し、本戦出場の枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期決勝進出者2名とタイトルホルダー）が加わり16名が王座への挑戦権をかけた本戦トーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し王座位を決定。敗者は次期本戦から出場

(5) 天元戦（第45期 新聞三社連合）

予選：全棋士が参加し、本戦出場28名+ α をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期準決勝進出者4名とタイトルホルダー）が加わり天元への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し天元位を決定。敗者は次期本戦から出場

(6) 碁聖戦（第44期 新聞囲碁連盟）

予選：全棋士が参加し、本戦出場24名+ α をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期準決勝進出者4名とタイトルホルダー）が加わり碁聖への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し碁聖位を決定。敗者は次期本戦から出場

(7) 十段戦（第58期 産経新聞社）

予選：全棋士が参加し、本戦出場16枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期準決勝進出者4名）を加えた20名で十段への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し十段位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦（第26期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗）

アマチュア20名を含む全棋士で予選を行う。前期優勝者と予選通過者、タイトル保持者の計16名で本戦トーナメントを実施し、優勝者を決定する（決勝戦は京都開催）。

(9) 阿含・桐山杯日中決戦（第21期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗）

日本と中国の桐山杯優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定。

第21期は、中国で開催の予定。

(10) 新人王戦（第44期 しんぶん赤旗）

- 25歳以下の初段から六段までの棋士で予選を行い、32名によるトーナメント戦を実施する。決勝戦は三番勝負で優勝者を決定。
- (11) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第67回 NHK)
選抜棋士50人によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定する。
- (12) テレビ囲碁アジア選手権 (第31回 NHK・CCTV・KBS)
日本、中国、韓国3カ国が持ち回りで開催。前年度優勝者と、NHK杯、CCTV杯、KBS杯、の優勝と準優勝者の計7名によるトーナメント戦を実施し、優勝者を決定する。第31回は日本で開催の予定。
- (13) 竜星戦 (第28期 囲碁将棋チャンネル)
予選：全棋士が参加し、本戦出場96名をかけたトーナメント戦を実施。
本戦：96名を8組に分け勝ち抜き戦の後16名による決勝トーナメント戦を実施し優勝者を決定。CS放送(囲碁・将棋チャンネル)で放映。
- (14) 日中韓竜星戦 (第1回 囲碁将棋チャンネル)
日本と中国、韓国の竜星戦優勝者が変則トーナメントで優勝者を決定。第1回は日本で開催の予定。
- (15) マスターズカップ (第9回 フマキラー)
50歳以上の現役七大タイトルホルダー及び経験者と予選勝ち抜き者2名計16名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。
- (16) グロービス杯 世界囲碁U-20 (第6回 グロービス)
日本6名、中国3名、韓国3名、中華台北1名、欧州1名、北米1名、タイ1名の、20歳未満の16名によるトーナメント戦を東京「グロービス経営大学院」で実施し、優勝者を決定。
- (17) 女流本因坊戦 (第38期 共同通信社)
本戦：予選の勝ち上がりと前期ベスト4、女流タイトルホルダー24名によるトーナメント戦を実施。
挑戦手合：五番勝負(3勝先取)を実施し女流本因坊位を決定。
- (18) 会津中央病院・女流立葵杯 (第6期 温知会)
本戦：予選の勝ち上がり、女流タイトルホルダー8名によるトーナメント戦を実施。
挑戦手合：三番勝負(2勝先勝)を実施し、女流立葵杯を決定。
- (19) 女流名人戦 (第31期)
本戦：予選の勝ち上がり、前期ベスト4、女流タイトルホルダーの計16名によるトーナメント戦
挑戦手合：三番勝負(2勝先取)を実施し女流名人位を決定。
- (20) 女流棋聖戦 (第23期 NTTドコモ)
本戦：予選を勝ち上がった16名によるトーナメント戦。
挑戦手合：三番勝負(2勝先取)を実施し女流棋聖位を決定。なお、本戦と挑戦手合はCS放送(囲碁・将棋チャンネル)で放映。

- (21) 扇興杯女流囲碁最強戦（第4回 センコーグループホールディングス）
予選勝ち上がり者と前回優勝者、準優勝者、女流タイトルホルダー16名によるトーナメント戦。準決勝、決勝戦は滋賀県近江市で開催し優勝者を決定。
- (22) 王冠戦（第60期 中日新聞社）
中部総本部所属の棋士で予選を行い12名によるトーナメント戦。優勝者が挑戦手合一番勝負に出場。
- (23) 広島アルミ杯・若鯉戦（第13回 広島アルミニウム工業）
30歳以下、七段以下の棋士で予選を行い、16名（前期優勝者、準優勝者はシード）によるトーナメント戦。本戦は広島で開催し、優勝者を決定。
- (24) おかげ杯（第10回 濱田総業）
30歳以下の棋士（開催年の前年末時点で次年度採用予定者を含む）で予選を行い、16名（前期優勝者はシード）によるトーナメント戦。本戦は伊勢市で開催し、優勝者を決定。
- (25) おかげ杯国際囲碁対抗戦（第6回 濱田総業）
日本・中国・韓国・中華台北、各国・地域の推薦棋士（男性3名、女性2名）による対抗戦を行い、優勝チームを決定する。伊勢市で開催。
- (26) S G W杯中庸戦（第2回 セントグランデW）
日本棋院所属の31歳以上60歳以下でかつ七大棋戦、竜星戦、阿含・桐山杯の優勝経験がない棋士が参加し、優勝者を決める。
- (27) グランドチャンピオン戦
国内各棋戦（女流棋戦含む）における、棋戦優勝者と賞金ランキング上位者によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。優勝者には、「内閣総理大臣杯・賞」「文部科学大臣楯・賞」が授与される。
- (28) ワールド碁チャンピオンシップ2020（NTTドコモ、三井住友カード、阪急電鉄ほか）
日本、中国、韓国、中華台北のトップ棋士8名による世界1位決定戦を行う。
- (29) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦（センコーグループホールディングスほか）
日本、中国、韓国、中華台北、欧州のトップ棋士8名による女流世界1位決定戦。
- (30) 海外棋戦
- ① L G 杯、三星火災杯、農心杯、国手山脈杯（以上、韓国主催）、夢百合杯、黄竜士双登杯世界女子囲碁団体戦、穹窿山兵聖杯世界女子囲碁選手権、天台山森然楊帆杯世界女子団体戦、乙級リーグ（以上、中国主催）等の海外棋戦に参戦する。
 - ② 海外棋戦の参戦にあたっては、「GO・碁・ジャパン」ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金によるさらなるチーム強化等を図り、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すこととする。

本チームは、監督、コーチ並びに賞金ランキング上位者、海外棋戦における成績優秀者、新人王等、及び女流棋士ランキング上位者の中から選出される代表選手により編成する。

2 棋士育成事業

棋士をめざす青少年の養成機関として院生研修を実施するとともに、海外棋戦での活躍に向けて若手棋士の育成を行う。

(1) 院生研修

毎土・日曜日（月8日間）院生研修を実施する。棋士師範の指導のもとクラス別に対戦し、毎月の成績によりクラスの昇降級を行う。この成績上位者と外来受験者を合わせて行われる棋士採用試験を経て棋士となる。また、院生研修日に、師範による解説と検討指導を実施するほか、毎日、ネット対局「幽玄の間」において、AIによる院生ネット指導を行う。

(2) 若手棋士育成

「GO・碁・ジャパン」メンバーの若手棋士には、海外棋戦へ挑戦させ、海外対局感覚を身につけるとともに、棋力向上の取り組みを行う。また、ナショナルチームの所属棋士とU20棋士による棋力強化対局をネット対局「幽玄の間」を利用して実施する。

(3) 語学・スキルアップ・プラン

加速する囲碁の国際化に対応する為、英語ができ、かつコミュニケーション能力の高い棋士の育成をするため、本プランを実施する。希望する棋士の中から2名を選考し、英会話スクールを受講、また検定試験を受験し、語学力の向上をめざす。

3 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設においてお客様対局場を開設する他、ネット対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に寄与する。

(1) お客様対局室の開設

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設において、お客様対局場を開設し、お客様同士で自由に囲碁の対局が行えるほか、相手のいないお客様には、日本棋院が相手を見つけて、組み合わせ対局を行う。また、入門者向けコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供する。

(2) ネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代・世界の囲碁愛好者が、パソコン及びスマートフォン・タブレット上で手軽に対局を楽しめる環境を提供する。魅力あるサービスを展開し、囲碁普及における中核的な事業として強化していく。

さらに昨年実施した「都道府県対抗戦」も引き続き実施を予定しており、会員の満足度向上に努める。

また棋力別に対戦用A I を多数導入し対局機会の増加を図った。

(3) 貸室・囲碁用品の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー等の開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供するほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等の利用に応じる。

(4) 海外囲碁センターの支援

欧州、北米、南米それぞれに保有する囲碁センターについてヨーロッパ囲碁文化センター（オランダ・アムステルダム）、シアトル碁センター（アメリカ・シアトル）南米本部（ブラジル・サンパウロ）の3カ所は、引き続き現地の囲碁普及団体に囲碁センターの運営を委ね、現地の囲碁普及活動を支援する。

また「岩本北米囲碁基金」（Iwamoto North America Foundation for Go）は、米国囲碁協会（AGA）と協力のうへ、北米における囲碁普及活動を支援し、特に今年度は、北米と日本棋院間でアウトバウンド（米国内で囲碁指導者研修）の事業を行う。

4 囲碁普及と囲碁指導

囲碁は、集中力・認識力・想像力・コミュニケーション力の向上に優れ、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが福祉、医学、教育界等で認知されてきている。

また、「囲碁と脳に関する研究」（東北大学）でも「囲碁は、子供の自己抑制力を伸ばす」ことが明らかとなっている。

囲碁の素晴らしさを幅広い世代へ伝えるため、今後もさらに普及活動を推進する。また、すべての囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化を普及するため、棋士による指導のほか、普及指導員、地元ボランティアによる囲碁指導を全国で展開する。

4-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求めため、地方自治体や学校等と協力体制をとり、地域に密着した囲碁普及事業を広く展開する。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 全国の小・中学校で入門囲碁体験教室を開催

棋士等を派遣し指導を行う。また、現地での継続的な開催を支援する。

② ジュニア教室の開催

東京本院、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じた教室を開催する。

③ 「入門・初心者会員」及び入門・初心者向け「囲碁アイランド」によりさらなる普及の拡大を図る。

(2) 学校教育への囲碁導入

- ① 「総合学習」 伝統文化体験学習の枠を使った正課授業及び部活動等への囲碁導入の支援を行う。
 - ② 学校囲碁指導員講習会の実施による拡充及び指導員養成を行う。
 - ③ 文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進を行う。
 - ④ 高等学校に於ける日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進を行う。
 - ⑤ 「がっこう囲碁普及基金」を有効活用し、学校教育への導入の際の棋士または指導員の派遣、用具支援を行う。
- (3) 学校囲碁指導員講習会の開催
- 学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、公益財団法人 J K A の青少年健全育成補助（予定）を受け、学校囲碁指導員講習会を全国で展開する。（平成 31 年度は、昨年度と同じ 17 会場での開催を予定）
- (4) 大学での囲碁授業の展開
- ① 大学の囲碁授業は平成 30 年度に 37 大学の実績であり、今後、50 大学を目標に開講促進の活動を実施する。
 - ② 大学での囲碁授業の講師として棋士を派遣するとともに、囲碁授業を円滑に実施するため、講師役の棋士への研修を実施する等支援を行う。
- (5) 「がっこう囲碁普及基金」の拡大
- 幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした「がっこう囲碁普及基金」基金（平成 27 年 4 月開始）の維持と拡大を行う。
- (6) 法人賛助会員の維持・拡大
- 法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただくもので、子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等に有効に活用しており、会員の維持・拡大を行う。

4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

囲碁の素晴らしさを伝え、囲碁を知らない方への入門指導、囲碁愛好者の棋力向上に向けた指導を行い、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承する。

- (1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施する。
- (2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努める。
- (3) ネット指導碁

日本棋院が運営するネット対局サイト「幽玄の間」上で棋士による指導碁を

実施している。遠隔地にお住まいの囲碁ファンも気軽に指導碁を受けられる。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士の派遣を行う。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行う。

平成 31 年度の棋士派遣は、国内で約 900 件を見込んでいる。

(5) 囲碁未来教室の開催

雑誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援する。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、各県本部・県支部連合会の協力を得て、棋士を派遣し、囲碁愛好者と棋士の交流を深める。棋士派遣を通して囲碁人口の拡大、個人・支部会員等の維持拡大を図る。

また、入門者・初心者を対象とした会員拡大キャンペーンを実施し、さらなる個人・支部会員等の維持拡大を図る。

① 個人、支部会員の維持・拡大

② 法人会員の維持・拡大

③ 支部の活性化

囲碁普及と各地の囲碁愛好者の棋力向上を目指し、支部代表者懇談会を全国 8 ヶ所で開催する。現地の要望、提案等意見交換を行うとともに、地域の「絆を作りだす力」としてのコミュニティーづくりとしても支部活動を強化していく。

特に、地方の団塊の世代のシニア層を対象とした入門教室を実施し、会員の新規加入、後継者育成等を推進し、活性化を図る。

また、全国の支部と連携し「日本棋院支部巡り」を実施し、支部の活性化を図る。

(7) 高齢者の脳の活性化と健康を増進させる働きかけ

わかりやすい内容の入門キットを製作するとともに、高齢者を対象とした販路を開拓し、高齢者の脳の活性化と健康増進を図る。

4-3 海外への囲碁普及

文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツの一つとして、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図り、現地囲碁愛好者の棋力向上に寄与する。

(1) 国際囲碁連盟 (IGF) との連携

日本棋院は、国際囲碁連盟 (IGF) と連携し、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努める。平成 30、31 年は日本棋院が IGF の会長国として囲碁の世界普及にまい進する。

(2) 三ヶ国棋院首脳会議

世界の囲碁界で活躍する日本棋院、中国棋院、韓国棋院の三ヵ国が出席して本会議を行う。将来にわたり世界中に囲碁を大きく発展させ、広く振興するため、三ヵ国それぞれの棋院が協力・連携・努力を行う。

(3) 棋士の海外派遣

各官公庁・民間団体等の支援を得て、棋士を海外に派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地囲碁ファンへの講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努める。

- ・クロアチア棋士派遣
- ・アメリカ（西部）棋士派遣
- ・囲碁指導者研修（オランダ・アムステルダム）棋士派遣
- ・ドイツ・ベルリン棋士派遣
- ・US碁コンgres（マディソン・ウィスコンシン州）
- ・欧州碁コンgres（ベルギー・ブリュッセル）

(4) 東京 2020 応援プログラム（beyond2020 プログラム）

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催気運を高める文化プログラムとして、「beyond2020 プログラム」の認証を受け、各種イベントを開催する。

2019 年度は第 40 回世界アマチュア囲碁選手権戦 島根・松江大会及び「サマー碁キャンプ」を開催し、海外の愛棋家に囲碁の伝統をはぐくんできた日本の囲碁と文化を学ぶ機会を提供する。また国際マインドスポーツ（IMS A）の協力を得て、2020 年 3 月にマインドゲームズとの連携による集合イベントを開催検討中である。

5 段級位認定

段級位の認定は棋力の証明となるもので、対局を行う際にはハンディキャップを付与することで、棋力の差がある者同士の対局でも公平に勝敗を競うことが可能となる。

(1) 段級位認定大会

今年度も全国各地で認定大会を開催する。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の月刊碁ワールド、囲碁未来、週刊碁、ホームページ、そのほか一般紙に認定問題を掲載し、段級位認定を行う。1 回の認定で段級位を申請できる認定問題の配布を 2 回実施する。

(3) インターネット認定

ネット対局「幽玄の間」を活用した、レーティングポイントによる段級位認定を行う。

6 囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、日本棋院が認可した全国 600 余りの支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行う。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした4つの全国大会及び地区大会を開催する。また各都道府県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行う。

(1) 第43回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

全国大会は7月22日から24日の3日間、東京の日本棋院で開催予定。約500名が出場。地方大会においては、昨年度に引き続き、各都道府県複数の会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。

＜公益財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）＞

(2) 第16回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

全国大会は7月28、29日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。1チーム3名・学校単位の団体戦で、小学校の部・中学校の部に各128校が出場。

＜公益財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）＞

(3) 第40回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

全国大会を7月30、31日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。各都道府県大会を勝ち上がった小学生約100名・中学生約100名が出場。地方大会においては各都道府県複数の会場での大会開催を呼び掛け、参加校、参加人数増を目指す。

＜公益財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）＞

(4) 第9回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

全国大会は12月14、15日に岡山県倉敷市で開催予定。都道府県大会において選抜された小学生低学年の部48名、小学生高学年の部48名の計96名がこども棋聖の称号をかけて競う。倉敷市・読売新聞社との共催。

(5) その他の大会の開催

上記の他、昨年に引き続きジュニア囲碁パーク、千代田区こども囲碁大会、ジュニア囲碁フェスティバル、ジュニア囲碁大会、ロッテこども囲碁大会などを開催する。

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

(1) 第12回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会。全国12都市で、13の地方大会を開催し、のべ10,000名が参加。2020年1月26日には、各大会優勝者を集めた全国大会を京都で開き、全国チャンピオンの座を競う。

- (2) 第 65 回全日本アマチュア本因坊決定戦
各都道府県大会を勝ち上がった選手とシード選手計 64 名が 8 月 17 日～18 日、日本棋院で行われる全国大会でアマチュア本因坊の称号をかけて競う。
- (3) 第 62 回全日本女流アマ選手権戦
各都道府県大会を勝ち上がった選手 96 名が 2020 年 3 月、日本棋院で行われる全国大会で日本一を競う。
- (4) 第 57 回女流アマ都市対抗戦
アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦。女性による 1 チーム 5 名の団体戦。全国の各都市持ち回りで開催しており、平成 31 年度大会は島根県松江市で開催。全国から約 500 名程度の参加を予定。
- (5) 全国アマチュア団体囲碁選手権
1 チーム 3 名による団体戦。
- (6) 囲碁・将棋チャンネル杯第 41 回世界アマチュア囲碁選手権
囲碁将棋チャンネルとの共催。各都道府県代表が集まる日本代表決定戦は 11 月 23、24 日に東京で開催予定
- (7) 都道府県民まつりの開催
各都道府県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的に、また、支部の活性化となるよう推進する。
- (8) 全国規模イベントへの参加
「ねんりんピック健康福祉祭」は、11 月 10 日に和歌山県海南市で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として参加、協力を行う。
- (9) その他大会等
1 月 5 日を「囲碁の日」とし、東京本院、関西総本部、中部総本部で打ち初め式を開催する。棋士による記念対局や指導碁等、囲碁ファンの交流の場となるように、また棋力向上につながるような催しを実施する。

6-3 アマチュア国際大会の開催

- (1) 第 40 回世界アマチュア囲碁選手権の開催
世界最高峰のアマチュア囲碁大会で、2019 年 6 月 2 日～6 月 5 日に島根県松江市の「島根県民会館」で開催する。選手は自国の選抜を勝ち抜いて代表出場する。

6-4 アマチュア国際大会への参加等

- (1) アマチュア国際大会への参加
○ワールドユース囲碁選手権戦
○ハンファ生命杯少年少女囲碁選手権戦（韓国開催）
○世界大学生囲碁選手権戦
- (2) 国際交流の支援及び大会の後援・協力

- 国際アマチュア・ペア碁選手権大会
- サマー碁キャンプ
- I N A F 碁碁研修
- 世界学生碁碁王座戦
- 中信証券杯世界電脳碁碁オープン戦

7 表彰

碁道の研鑽、碁碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本碁碁界の将来を担う碁士を対象にその栄誉をたたえ表彰する。

(1) 大倉喜七郎賞

日本碁碁院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ昭和 39 年に創設。碁士、アマチュア、国内外問わず、碁碁普及に特に功勞のあった方を表彰する。

(2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和 38 年に創設。碁碁界において顕著な成績を収め、将来が囑望される碁士を表彰する。

(3) 碁碁殿堂表彰

日本碁碁院創立 80 周年記念事業として、碁碁殿堂資料館の発足とともに創設し、碁碁史上に多大な業績をあげ、現在の碁碁の隆盛に貢献した方を顕彰（殿堂入り）する。

(4) その他

上記の他、碁道賞、普及功勞賞、普及活動賞、優秀支部表彰、特別功勞賞、土川賞等の表彰がある。

8 碁碁関係情報提供

日本の伝統文化である碁碁を次代に継承していくため、出版物、あるいはインターネット上に碁碁文化・技術等に関する情報を積極的に発信する。

(1) 雑誌、新聞の発行

① 「月刊碁ワールド」

月刊誌。毎月 20 日発売。日本碁碁院会員誌、書店販売。中級者から有段者向け月刊誌として、碁戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュース、トリアル問題などバラエティーに富んだ内容を掲載する予定。

② 月刊「碁碁未来」

月刊誌。毎月 5 日発売。日本碁碁院会員誌。15 級から初段を目指す方を対象として、碁力向上のための布石、定石の問題、講座、碁碁情報等を掲載する。また碁碁未来教室のテキストとしても活用する。

③ 「週刊碁」

タブロイド紙の新聞。毎週月曜日発売。日本碁碁院会員紙、駅売りなど。碁碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、碁士の動向、海外情報、アマ大会

や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座など、幅広い層を意識した多彩な構成とし、国内外の囲碁愛好者へ情報を発信する。

④ 「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行予定。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など、平成30年一年間の囲碁情報をまとめる。

(2) 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報、棋士プロフィールなどの囲碁情報をはじめ、これから囲碁を始めたい方のための簡単入門ページや日本棋院として取り組んでいる囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」、学校囲碁普及事業などの情報を提供している。また、事業計画、報告や定款など公益法人として必要な情報公開を行っている。なお、英文、簡体中国語、繁体中国語、韓国語での情報提供を行い、世界への情報発信、囲碁普及に努めていく。

② インターネット対局「幽玄の間」

ネット対局「幽玄の間」では、あらゆる世代のあらゆる地域の人たちが囲碁を楽しめるように、次のような環境を提供している。

- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップ棋戦の棋譜を配信
- ・ネット対局「幽玄の間」で中継された棋譜のアーカイブ提供
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流
- ・都道府県対抗戦などのネットによる囲碁大会の開催

③ 情報会員

日本棋院のホームページに付設した情報会員には、主に新棋譜から過去の名局まで、60年近くにわたる、約6万6千局の棋譜データを提供している。

9 囲碁殿堂資料館

平成16年11月15日に開設し、囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品展示、歴史に残る名棋譜の展示を行う。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、本年度の事業計画を策定し、積極的に活動推進する。

10-1 有楽町囲碁センター

(1) 有楽町の東京交通会館「有楽町囲碁センター」は、年末年始以外は年中無休で、ファンの方々に対局場のほか段級位認定大会、棋士による指導碁、盤

石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校等のサービスを提供している。

(2) 「有楽町囲碁センター」は、商業地に立地する地の利の良さ等により来場者数は毎年年間延べ5万人以上の入場者数を維持している。引き続き、都心の中心地で、利用者に満足かつ愛される囲碁センターを目指し、サービスの向上に努める。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統轄する。普及拠点として「梅田囲碁サロン」及び「茶屋町囲碁サロン」（会員制）を運営する。

(1) 各種大会の開催及び後援（主なイベントは以下の通り）

- 夏休み子ども囲碁フェスティバル
- 尼崎こども囲碁本因坊戦 2019
- 第16回寝屋川囲碁将棋まつり
- 第52回歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり
- 比叡山こども囲碁合宿
- 第9回阪急納涼囲碁まつり in 大阪
- 定例段級位認定大会（年5回）
- 級位者大会（年6回）

(2) 会館事業の充実（梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン）

- 「梅田囲碁サロン」は大阪中心の梅田ターミナルに程近く、立地条件に恵まれており、年末年始以外、年中無休で営業を行う。昨年は台風や地震など天災の影響で入場者数は微減したが、今期は6%増の25,000名を目指す。梅田囲碁サロンは、利用者が望む快適な環境改善およびサービスを充実させる目的として、日替わり特典やサービス等の企画などリピーターがより増える施策を実施し、さらなる集客を目指し普及に努める。

対局ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日そして有段者の集いを開催する。貸室は囲碁学校、入門教室をはじめ法人各種団体への貸席等の勧誘を行い一層の利用促進に努める。また、販売コーナーでは盤石、囲碁用品そして書籍の品揃えを充実させ利用者の希望に応える。

- 「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトとして大阪茶屋町で運営をしている。当サロンは会員制として運営を行い、個人会員、法人会員のみが利用する洗練された新たな顧客ニーズに対応した普及を引き続き行う。

(3) 大学での囲碁講座開設への取り組み

平成30年度に開催された大学の囲碁講座は関西圏で3校、中国圏では2校で取り入れられている。今期も引き続き上記校をモデルケースとして各大学に

講座開設の働き掛けを積極的に行い若者層への普及拡大を行う。

(4) 小中学校への囲碁普及活動の充実

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、関西の公立小学校の総合学習の時間、クラブ活動を利用した囲碁授業の導入、また私立の幼稚園、保育所へも定期的な囲碁入門教室の開催が出来るように働きかけを行う。すでに囲碁授業を導入している小学校等へは授業内容等についての援助、協力を行う。また、各地域の普及指導員への支援等を行い、関西のこども達への普及をより一層拡大するように努める。

10-3 中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統轄する。

(1) 各種大会の主催等（主なイベントは以下の通り）

- 東海地区朝日アマ団体十傑戦
- ジャンボ団体戦
- 中部こども級位者大会
- 日経杯新春囲碁大会
- 愛知県・江蘇省青少年囲碁交流

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中日新聞社主催「第60期王冠戦」

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

- 指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、充実を図る。
- 院内イベントの充実を図る。
 - ・「10アンダーの日」
 - ・「級位者の日」、「有段者の日」
 - ・「Happy級位者の日」、「Happy有段者の日」
 - ・チャレンジGo碁kids名古屋の開催

- 入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全11コースを開講し、女性及び高齢の方々の囲碁ファンより好評を得ている。

(4) 普及活動

- 中部地区の囲碁愛好家からの寄付により、中部青少年普及囲碁基金を活用し、中部管内の高校生以下を中心とした青少年の囲碁普及活動の推進に努める。
- P T A及び地域ボランティアの協力を得て、小学校の放課後授業への導入を進める。また、中部地区の大学囲碁授業導入に向け積極的に働きかけ、広く囲碁の普及に努める。
- 北陸地区の囲碁ファンの拡大のために、各県支部連合会の協力の下、囲碁ファン参加イベントを開催し会員の拡大を図る。

II 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、棋力向上の励みとなるよう9級から八段までの免状を発行する。免状には、審査役である棋士の署名がなされる。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を、六段以上の高段位免状保有者には、県師範、公認審判員を申請する権利を付与する。公認審判員の認証には、公認審判員講習の受講と書類審査を行う。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4F～6F部分を他法人に賃貸している。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

(1) 販売事業

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行う。また、全国各地でも購入できるよう、通信販売やインターネットを利用したのオンラインショップでの物品販売も実施する。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者に向けた棋力向上の講座、問題集、読み物等の単行本を発行予定。そのほか既刊本を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売する。

(3) 電子書籍

日本棋院が発行した各種紙誌（週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来）及び単行本を、電子書籍としてPCサイトとスマートフォンAndroid向け「e碁BOOKS」、スマートフォンiOS向け「i碁BOOKS」で配信する。

Ⅲ 管理部門

1 「女流特別採用推薦棋士」「英才特別採用推薦棋士」の新設と拡充

年で一人しか採用のなかった女流棋士を拡充する「女流特別採用推薦棋士」と、若い才能の発掘を目指す「英才特別採用推薦棋士」を新設したことにより、仲邑菫新初段の誕生につながり、大きな反響を呼びました。

新年度は新入段棋士を育成していくことと、普及や棋戦を舞台に活躍する姿を積極的に広報していく。

2 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力する。

内部統制の強化については、「内部統制委員会」を中心に監査の実施及び改善取り組みを施しており、継続的に取り組み強化を図る。

3 受取寄付金の維持拡大と有効活用

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図る。

(1) 「GO・碁・ジャパン」応援募金の継続

ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金によるさらなるチーム強化等を図り、「世界で勝てる日本の棋士」の育成を図り、海外棋戦における成績向上を目指す。

(2) 「がっこう囲碁普及基金」の継続と拡大

幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした基金を平成27年4月より募金の受付を開始。いっそうの拡大を図る。

(3) 法人賛助会員の維持・拡大。

(4) 上記以外の特定寄付金（岩本海外普及基金等）、一般寄付金。

4 「100周年ビジョン」に向けて

囲碁人口の減少、日本棋士の強化、そして財務基盤の劣化。この現状を鑑みて、日本棋院創立90周年にあたる平成26年に、10年後の100周年に向けたビジョンをどう描くかという構想のもと、「100周年プロジェクト」を開始した。同プロジェクトは「厳しい現実」を直視して、大胆かつ抜本的な改革を進めないと、囲碁界の未来がない、という強い危機感をもとに、以下の10の行動を提言し、実現に向けて取り組んでいる。（別紙）

100周年ビジョンの取り組み

囲碁人口の減少、世界で勝てない日本棋士、そして財務基盤の劣化。この現状を鑑みて、日本棋院創立90周年にあたる平成26年に、10年後の100周年（2024年）に向けたビジョンをどう描くかという構想のもと、「100周年プロジェクト」を開始しました。同プロジェクトは「厳しい現実」を直視して、大胆かつ抜本的な改革を進めないと、囲碁界の未来がない、という強い危機感をもとに、以下の10の行動を提言し、継続的に取り組むこととします。

〈100周年の姿〉 囲碁人口500万人！学校、企業、家庭で老若男女が囲碁を楽しむ。

行動-1 囲碁普及～囲碁人口増大を

(1) 教育への導入。

- ・ 幼稚園、小学校授業（放課後含む）の正課授業の拡大。
⇒ 134校（平成30年度実績）。
- ・ 中学校・高校・大学の囲碁部への支援。
⇒ 全日本学生囲碁連盟との連携強化。
⇒ 小・中・高等学校186校導入、延べ34,000人体験。
- ・ 大学への囲碁講座の拡大。
⇒ 37大学で開講（平成31年度実績）⇒ 青山学院大学地球社会共生学部「Topics in Japanese CultureⅢ」囲碁講義開講 他。

(2) 社会人と女性・高齢者への普及。

- ・ 企業新入社員研修等に囲碁を導入。
⇒ 一般企業にて1社継続採用。過去にて単発にて数社にて実績あり。
- ・ 囲碁ガールズの拡大。
- ・ 基会所等、他の囲碁団体と連携強化を通して高齢者ファンの増大。
⇒ 全日本囲碁協会と連携強化。

(3) 草の根囲碁普及活動の支援。

- ・ 囲碁の裾野拡大に向け、初心者対象指導法と級位認定の統一。
- ・ 囲碁カフェ、朝囲碁ボランティア活動支援。
- ・ 普及指導員・学校指導員制度の改革・活性化。
⇒ 級位者でもなれる普及指導員に制度改定。

〈100周年の姿〉 世界トップ10に2人、トップ20に4人、トップ50に10人

行動-2 世界で勝てる棋士を数多く育成する

(1) 棋士の登用。

- ・ 棋士採用時に社会人としての人格構成を院生師範と強化。

(2) 若手棋士の育成。

- ・ナショナルチームの活動強化。
 - ⇒ 棋力強化合宿、海外棋戦への積極的参戦。
 - ⇒ 2018 中国乙級リーグ参加。
 - ⇒ 募金への理解を深める活動予定（平成 31 年度）。
 - ⇒ 活動の整理と強化策の再検討（平成 31 年度）。
 - ・ジュニアアカデミーによる全国から才能ある人材を集める。
- (3) ランキング制度の導入。
- ・国内ランキング制度の検討。
 - ⇒ I G F ランキング制を参考に継続検討。

〈100 周年の姿〉 日本棋院会員を 10 万人以上！！

行動-3 大胆かつ抜本的な改革を実施し、財務基盤の確立を

(1) インターネットの普及や経済・社会の変化に即応、意思決定の迅速化を図るため執行部へ外部人材を登用（理事 18 名中 外部理事 8 名）。

(2) 棋士の報酬制度を従来以上に囲碁普及への貢献を、重視する棋士の報酬制度のあり方を検討。

(3) 職員の人事制度も、収支改善に向け経営環境の変化に対応したインセンティブの働く制度の導入を図る。

⇒ 平成 29 年度より実施

(4) 財務基盤強化

- ・棋士の報酬に係る財務分析を行い、将来にむけた対策を検討。
- ・会員制度の改革・・・個人会員・ネット会員を見直し、新たな日本棋院会員を創設。

(基本方針)

イ 無料 I D 者を棋院会員に取り込む。

⇒ 平成 30 年 4 月に「日本棋院 I D 会員」「メルマガ会員」を創設。

ロ 紙面会員の 15 メニューは、統廃合を整理。また、紙面会員は、高齢層、収支への影響を考慮し、継続するが、減収に歯止めは掛からないので、新サポート会員の拡大を図ることにより減少に歯止め。

⇒ 平成 31 年 6 月から雑誌と新聞の値上げを予定。

ハ 新規会員は、基本的にネット申込会員とする。

「幽玄の間」会員は、魅力のあるサービスの展開を図り収益の拡大を図る。

ニ、会員拡大、収納管理の効率化、大会申込等の入会システムの改善、

物販システム効率化等のために E C サイトの導入を検討

⇒ ネット対局「幽玄の間」の請求データ作成処理システム構築し、業務簡素化を計画（平成 31 年度 5 月予定）。

ホ 囲碁ファンの入口としての H P の使い勝手などを継続的に見直す。

・日本棋院ドリームファンディング)による 13 路盤プロ・アマトーナメント戦実施。

⇒財務基盤強化は、以下を中心とする。

(1) ネット「幽玄の間」を中心にして、小口販売をして、ロングテールで収入増へ。

また、クラウドファンディングを有効活用する。

(2) 会員制度の改革：個人会員、ネット会員を見直し共通の日本棋院会員（仮称）を創設する。

・大会への参加や、日本棋院、総本部、本部支部の割安使用、ネット・出版の割安購入、自戦解説付き棋譜提供等による会員メリット向上。

⇒ 平成 30 年に「日本棋院 I D 会員」「メルマガ会員」を新設。

〈100 周年の姿〉 地域対抗、実業団が加わり、囲碁コンGRESがある。

行動-4 地域対抗・実業団棋戦と囲碁コンGRESの創設

(1) 地域対抗プロ・アマ棋戦の創設。

(2) 実業団対抗戦の創設。

(3) ジャパン碁コンGRES開催。

【2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて】

・ 世界アマチュア囲碁選手権、サマー碁キャンプの開催などや地域囲碁サミット、地域碁コンGRESを開催する。

⇒ 2019 女流都市対抗戦を島根県松江市で 6 月に開催予定。

・ 議員囲碁連盟、行政（文科省、文化庁、東京都庁、外務省等）への取り組み推進。

⇒ 日韓国会議員親善囲碁交流（14 年ぶりに東京開催。平成 29 年 7 月）。

⇒ 日韓中国会議員親善囲碁交流（韓国・ソウル。平成 30 年 8 月）。

・ 世界アマチュア囲碁選手権開催に向けたスポンサー確保。

(4) タイトル戦をファンがより楽しめるような仕組み検討。

(5) 遠隔地の方との対局には、ネット対局を拡大。

・ 「幽玄の間」会員による地域対抗戦の開催など継続実施。

⇒ 「第 1 回 S G W 杯中庸戦」予選ネット対局による新棋戦新設。

〈100 周年の姿〉 ネット会員 10 万人以上、入門から高段者、子どもからお年寄りまで幅広い層が利用している。

行動-5 ネット戦略を描き、幅広い層へアピール

(1) ネット戦略を構築するため継続的に抜本改革を行う。

(2) 「幽玄の間」のサービス拡充。

・ 「幽玄の間」会員の拡充のためのサービスメニュー検討、情報会員の見直し。

(3) 入門・初級者戦略。

・ 入門・初心者向けアプリ「囲碁アイランド」(iOS Android) の拡充。

(4) YouTube に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、対局等の映像を配信し、普及・ビジネスの拡大を図る。

⇒ 平成 30 年 2 月に実施。

(5) ホームページの活用。

- ・ホームページのさらなる利用向上。
 - ・大会参加や会員入会、資金決済を念頭に置いたECサイトの導入検討。
 - ・広報・宣伝機能の充実（専門家の登用検討）。
- ⇒ 1. ネット戦略を構築するプロジェクトチームを組成して、抜本的にあり方を検討する。
2. 「幽玄の間」サービス拡充。
情報会員とのサービス相互乗り入れ、決済機能の強化、会員種別の多様化（年払い会員、限定利用会員）など。
- ⇒ 日本棋院ID会員、メルマガ会員の 신설によるPR推進。
3. 入門・初級者戦略。
スマートフォンを中心とした、自社開発コンテンツの提供や既存アプリとの連携による、入門・初級者の取り組み。
4. ホームページの活用。
公式ページでの全国各地の大会・イベント情報発信とWEBでの大会エントリー受付やファンと棋士の交流広場。
- ⇒ 情報発信、エントリー受付をWEBで実施し、業務の円滑化に貢献。

〈100周年の姿〉 囲碁の棋戦結果などが、常にニュースになる。ニコ動、YouTube 中継を
10万人以上が活用

行動-6 メディア戦略～囲碁の知名度を徹底的に上げる。

- (1) 日本棋院内に専門家によるメディア戦略・広報チームを組成。
- (2) 既存メディア（TV、新聞、雑誌）との関係強化。
- ・タイムリーなニュースリリース発信、新聞各社との連携強化（記者発表等）。
 - ⇒ ニュースリリース発信対象社の拡大（平成31年1月）。
 - ・スタープレイヤーの積極的掲載・取材による「囲碁」のPR推進。
 - ⇒ 新規メディアの開拓 ⇒ 井山七冠 国民栄誉賞受賞記念式典の開催。
 - ⇒ 仲邑菫新初段の登場に際し、積極的にマスコミへ情報発信。
- (3) 新規メディアの開拓。
- ・ツイッター、フェイスブック等のソーシャルメディアも活用。
 - ・ニコ動、YouTube等動画の活用。
 - ⇒ YouTube日本棋院囲碁チャンネル映像配信を平成30年2月から開始。
- (4) 漫画、アニメ、ゲームによる囲碁の認知度を高める。
- ⇒ (株)くもん出版との「NEWスタディ囲碁」発売への協力。

〈100周年の姿〉 東京オリンピック・パラリンピックで囲碁フェスティバルが開催され、
ジャパン碁コンGRESSがレガシーとして存続し、世界のGOの中心として
日本が輝いている。

行動-7 国際戦略～世界のGOの中心として日本が輝く

- (1) 東京オリンピック・パラリンピックにあわせた囲碁の世界発信。
 - ・「サマー碁キャンプ」等のイベントを拡大し、インバウンド内容を充実。
 - ⇒ 「サマー碁キャンプ」 in 東京を平成30年8月に開催。
 - ⇒ 世界アマチュア囲碁選手権大会 in 東京を平成30年5月に開催。
 - ⇒ 世界アマチュア囲碁選手権大会 in 島根を平成31年6月に開催予定。
 - ⇒ 2020年世界女流アマチュア囲碁選手権戦を新設し開催予定。
- (2) シアトル、サンパウロ、アムステルダム碁センターの拠点、また、I N A F（岩本北米基金）を活用した日本囲碁の世界への普及拡大。
 - ⇒ I N A F 北米「アウトバウンド」交流事業「ナショナル碁センター」へ平成30年9月に棋士派遣。
 - ⇒ サンパウロ南米本部への課題取り組み（碁センターの運営改善等）。
 - ・ I N A F インバウンド・アウトバウンドプログラム実施。
 - ・ E G C C 碁キャンプへの継続協力。
 - ・ サンパウロ南米本部の新たな体制と普及の拡充（碁センターの運営等）。
 - ・ U S コングレス、欧州コングレスへ棋士の継続派遣による囲碁普及の拡大。
 - ・ 海外大使館との連携による囲碁普及拡大。
 - ⇒ 外務省への協力依頼。
 - ⇒ 2018年9月に2018在ドイツ日本大使杯棋士派遣「ベルリン」。
 - ・ ASEAN 諸国との囲碁研修により、ASEAN の子ども達への普及拡大を図る。
- (3) コンテンツを翻訳し日本発囲碁コンテンツを展開する。
 - ・ H P には英語・中国語・韓国語で訳せる機能導入提供。
 - ・ A I 棋戦や世界棋戦での英訳等中継発信。

〈100周年の姿〉 囲碁が子供、経営者、シニアにとって有効であることが社会の常識になっている。

行動-8 囲碁の研究を深め、データの蓄積～人工知能・科学との融合

- (1) 棋士の育成手法に関するリサーチを強化して、人工知能を組み合わせた、指導法を確立する。
 - ・「Deep Zen Go」との協同。
 - ⇒ 2018年度、棋士研修用として、「幽玄の間」への囲碁ソフトA I 導入（Leera Zero、Open ELF、A Q等）。
- (2) 教育、医療、家族・地域の絆など、囲碁の多面的な魅力と効用を主に子供、成人・シニアに分けて研究し、海外研究機関とも連携・アピールする。
 - ・子供にとって囲碁による情操面、頭脳面での効能。
 - ・囲碁と学業成績との相関性実証調査。
- (3) 大学における囲碁講座、囲碁のビジネス書発刊を通して、囲碁のもたらす戦略的発想など、ビジネスへの活動分析を深める。

- ・大学正課授業導入拡大、企業での社員囲碁講座導入の推進。
⇒ 大学の正課導入は平成 30 年度実績で 37 大学等。
- (4) シニア向けの研究を強化する（絆づくり、アルツハイマー研究、認知症研究）。

〈100 周年の姿〉 地域定住棋士と地域拠点が連携し地域を盛り上げている。

行動-9 地方の普及盛り上げと地域の活性化

- (1) 日本棋院の地域普及の柱。
 - ・地域定住棋士制度の創設検討。
 - ・独立採算制が可能なブロック制検討
 ⇒ 九州本部での検討。
- (2) 本部・県連・支部活性化と普及の拡大。
 - ・県本部・県連と連携し普及強化（棋士派遣等）を行い支部組織の活性化。
 - ⇒2019 年 2、3 月に平成 30 年度支部代表者懇談会実施。
 - ・囲碁愛好家の底辺拡大のため「入門・初心者」会員の継続的拡充。
 - ・常務理事による地域アカウント体制の継続検討。
 - ・支部代表者懇談会を捉えた支部等意見の課題対応。
- (3) 「囲碁祭り」のような地方自治体との強化体制を図りながら、地域の囲碁活性化を図る。
 - ・平塚囲碁祭り、川越囲碁祭りなどの拡大。
 - ⇒ それぞれ継続的に実施。
 - ・日本棋院主催、後援大会等の積極的支援。
 - ・囲碁サミット加盟市町村並びに 県本部等を中心とした地方自治体との体制強化を行い、地域の囲碁活性化を図る。
 - ⇒ 囲碁サミット in 鹿島を佐賀県鹿島市にて 2018 年 11 月に開催。
 - ⇒ 市長・教育長へのアプローチによる囲碁大会、学校授業拡大。地域の絆作りに囲碁を積極的に、継続して提案。
 - ・震災復興祈念囲碁イベント支援の継続実施。
 - ⇒ 北海道胆振東部地震、西日本豪雨復興支援チャリティイベントをそれぞれ平成 30 年 10 月と 11 月に開催。

〈100 周年の姿〉 ファンの声を尊重し、棋士、職員、囲碁関係者が一緒になって囲碁界を盛り上げている。

行動-10 囲碁ファンの声を尊重し、100 周年に向け発展を！

- ・ 9 路盤、13 路盤のスマホアプリの拡充 ⇒ 13 路盤プロ・アマ戦。
- ・トライボーディアン（囲碁、将棋、オセロ）選手権。
- ⇒ 第 4 回グロービストライボーディアン日本選手権開催
- ・ファンに親しみやすい囲碁をモチーフとしたキャラクター採用によるホームページ、雑誌、新聞等への活用。